

各 位

当社の関連会社における新規事業(AdBlue 事業)につきまして

当社の関連会社で実施する新規事業(AdBlue 事業)について、ご紹介いたします。

環境への取り組みと自動車(ディーゼル車)の排気ガス規制に関する世界的な背景

1997年京都で行われたCOP3において、温暖化ガス排出量の削減に向けた数値目標が設定され、京都議定書に批准した各国は数値目標を守るという約束の下、経済活動が行われておりましたが、米国が議定書に批准しておらず、中国も当時は発展途上国という括りであったため義務が課されていないなど、結果的には形骸化しておりました。

2015年パリで行われたCOP21において、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとしてパリ協定が採択され、歴史上はじめて、全ての国が参加する公平な合意とされています。

特にディーゼル動力の移動手段は環境への悪影響が懸念され、排気ガス規制が徐々に強化されてきております。

AdBlue とは

AdBlue とは、ドイツ自動車工業会 (VDA) の厳しい基準をクリアし認証された高品位尿素水だけが名乗れる登録商標です。

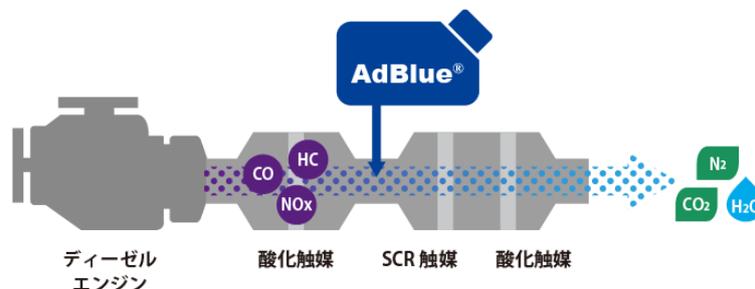
近年発売されているディーゼル車に搭載されている AdBlue を使用する SCR システム

【図1】によって窒素酸化物の排気を水と窒素に分解します。それにより、緑豊かな自然環境を守り、温暖化の抑制・地球規模の環境保全の一端を担うことができる商品が AdBlue です。

かつてのディーゼル車は、稼働中に黒煙が目につくため、環境に悪いという負のイメージが強い一方、ガソリン車に比べてパワーがありトラックや工作機械には向いているという側面があります。

また、自動車に限らず AdBlue を搭載したディーゼルの移動手段は、環境負荷というマイナスの側面を低減し、パワーに優れるディーゼルの動力源が見直されることになることが予想されます。

【図1】



AdBlue 事業の重要性

AdBlue は、ディーゼル車には不可欠なものとなっていくことは自明であります。

なぜなら、AdBlue を搭載したディーゼル車（図 2）が AdBlue 切れを起こすと、燃料が無くなるのと同様にエンジンがかからなくなります。

つまり、ガソリンスタンドなどでいつでも補給できる環境を整備する必要があります。

なお、尿素水の原材料である尿素は、石炭由来と石油由来の尿素に分別されますが、AdBlue は原材料である尿素自体の成分にも一定の基準があり、不純物の少ない石油由来の尿素を使用することで高品位を保っております。

そのため、中国から原材料の尿素の輸出制限がかかった韓国では急速な尿素水不足に陥ってまいりました。供給不足になっていたにも関わらず、AdBlue 事業はライセンスやコストの問題で参入障壁が高いため、結果として供給量の回復に一定の期間を要しました。

このように、今後需要の高まる見込みがあるとともに、供給不足する懸念もあるため、本事業に新規参入する中で、供給不足の解消ならびに環境問題の改善へ寄与できると考えております。

また、ディーゼル車で 2,700 億円、ディーゼル動力の小型船舶で 430 億円と十分な市場規模があり、生活環境の悪化を防ぎ、社会の持続可能性を維持できる魅力的な事業です。

【図 2】



以上